



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール  
例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内  
電話 0235 (2) 7711

会長 嶺 岸 光 吉  
幹事 佐 藤 徳 衛  
会報委員長 川 村 繁 男  
小 池 正 治  
西 海 藤 一  
佐 藤 一 昇

No., **1077** 1980. 10. 14 (火) (雨) No.,15

### ヒシター紹介

早坂重雄君	生命保険一酒田東R.C	}	鶴岡西R.C
石寺龍象君	シニア(生命保険)		
菅原幸雄君	プレハブ建築		
阿部光男君	塗装業		
桜井晋君	耳鼻科医		

### ◆ ゲストご紹介

荘内日報社取締役広告部長 佐藤<sup>タカ</sup>陸<sup>オ</sup>男氏

### 会 長 報 告

嶺岸光吉君

1. 去る9月26日、27日 第253地区年次大会の参加に対してお礼状が来ておりま

# TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

す。

1. 財団法人ロータリー米山記念奨学会より募金達成の文書が参っております。募金目標が300,000,000円に対し357,378,610円に達したようでございます。尚今後も寄付金に対する免税措置につき再度申請したところ、向こう2年間(55.10.2~57.10.1)まで認可を受けられたようです。フェローに対しても免税措置がとられるならばと思います。
1. 10月8日に津田君にお見舞いに行き参りました。頗る元気で歩行出来るようになり、会員の皆様によろしくと申しておりました。
1. 1981年国際ロータリー年次大会が同年5月31日~6月3日までブラジルのサンパウロで開かれます。参加されます方は早目に事務局まで申し込んで下さい。
1. 第3回目のクラブアッセンブリーを開催致します。午後3時に産業会館前出発致します。車は幹事のご奉仕によるもので各委員長さんは、計画書ご持参願います。委員長欠席の委員会は代理の方を出していただきます。
1. 10月7日~10月14日までの期間が職業奉仕週間となっております。今日はゲストにお迎えした庄内日報社取締役佐藤陸男氏より職業奉仕に因んでのスピーチをお願いしております。

## 幹 事 報 告

佐 藤 衛 君

1. 会報到着  
新庄R.C、東京R.C
1. 当クラブ10月21日の例会は鶴岡西クラブとの合同例会の為、18日に変更になります。  
午後4時30分点鐘一場所は三瀬海岸琴平荘です。  
マイクロバスご利用の方は産業会館前3時45分出発です、お間違いのないようお願いします。

## 委 員 会 報 告

### ◎市民の森の会

会 長 三 井 健 君

市民の森の会に申し込みになって居られる方もございますが、まで申し込みになって居ない方はご加入をお願いします。

尚、右の下の方に申込書がご座居ますので、それにご記入の上、山下さんまで申し込み下さい。受取書は来週差し上げます。何分宜敷くお願いします。

### ◎ユネスコからのお願い

三 井 徹 君

この度阿部先生がお亡くなりになり、何かと体制が整わず現在に至りました。この度役員を選考と体制が出来ましたので、ここに活動の中心になっておられる2人の方をご紹介しながら今年度の皆さんの会員として宜敷くお願い致します。本日は会費もいただきたいと思ひます。

事務局を担当する五十嵐喜弘君、子供学校を担当する菅原和夫君です。

こういう若い方を育てた阿部先生、OBの若い方が中心になってよく活動致し盛り上げてまいりました。ロータリーの役員になっていただいた方々はもちろん一般の会員の方もユネスコ会員として差し上げましたバッヂをおつけいただきまして積極的にご参加、ご支援をお願いします。

○ユネスコ事務局担当 五十嵐 喜弘 君

まだ若い者ですがこれから会長からいろいろ聞いて、この会をもう一度邁進させていく為に阿部先生の意志をついで頑張っていきたいと思っております。宜敷くお願いします。

○ユネスコ子供学校担当 菅原 和夫 君

子供学校を担当する菅原と申します。私はノースモーキング運動を提唱しておりますが鶴岡保健所なものですから、鶴岡保健所は所長、みまんタバコを吸う人がほとんど居ない珍しい職場なので、みまんと云う事は所長一人職員の方を代表してヘビースモーカーと云う事です。この場所に来て一番びっくりするのはタバコの煙で、向こうの壁が霞んで見えないのではないかと思います。どうぞ宜敷くお願いします。

◎親睦委員会磯釣大会ご案内

場 所	小岩川近辺
日 時	10月18日 午前7:50分集合
集合場所	商工会議所前 午後3:30分終了。
採 点	目方、又は全員の投票で決定
賞 品	五等まで。

◎職業奉仕委員会

委員長 佐藤 元伸 君

本日は職業奉仕週間という事で、今年度の当委員会の計画に基づいてゲストスピーチによるスピーチをお願いしております。ゲストスピーカーの紹介は後ほど秋野委員よりご紹介をしていただきます。

◆ ゲストスピーカー 佐藤<sup>タカオ</sup>陸男氏のご紹介

親友の 秋野 忠 君

佐藤陸男さんをご紹介したいと思います。佐藤さんを語るには水泳を抜きにしては語れません。鶴岡市ではもちろん、県の水泳においても大変なご活躍をされております。水泳そのものの記録というものはありません。事はないのですけれども古式泳法とか、佐藤さんの現在に至るまでどのように古式をきちっと守りながら素晴らしい泳法でずっと今までやってこられたのじゃないかと思っております。

このように水泳を通して子供たちにいろんな事を教えてもおりますし、ボランティア活動に関しても大変深い造詣をもっておる素晴らしい方でございます。

## ◆ ゲストスピーチ 職業奉仕週間にちなんで

庄内日報社取締役 佐藤陸男君

本日は、私のような若輩にお声をおかけいただき、恐縮いたしておる次第でございます。

元来、私は司会等のような場合は、厚顔に無恥をまじえ、なんとか取りつくりろろ事は出来るかもしれませんが、このような席で話をするという事は真に不得手であり、いままだ考えが定まっておりません。

非常に不慣れでございますので、多々失礼な言を呈するようなことが有るかと思いますが、何卒寛大なお心を頂きましてしばらくの間非礼をも顧みず思いつくままに話してみたいと思います。

私が、この場で申すまでもなく新聞界の大先輩の小野寺常務がメンバーとしていらっしゃいますので新聞界の大所、高所の話は省略させて頂きまして、私が専門的に仕事をしております新聞広告について、小さくまとめてお話をしてみたいと思います。

まず、地方紙の役割りとしての庄内日報ですが、中国新聞社の平岡常務が昨年ある雑誌で、「地方の時代と言う流行の眼鏡をかけて新聞界を眺める時、ここでも又、地方紙の時代といってもおかしくないような状況がみられる」と云っております。

本来、現在の主要地方紙（京都新聞）の各地域の占有率が、全国紙の占有率をはるかに引き離しております。交通網・通信網の発達に伴い、全国紙（朝・毎・読・日経・サンケイ）に対する地方紙の時間的な優位性は失われつつありますが、地方紙の占有率が高いのは、地方紙が地域密着をモットーに、地域ニュースの充実と、広告主とのより一層の密着に努めた結果ではなからうかと思われます。

例えば中日、西日本、北海道、河北、魁等のブロック紙でも、そのような現状の中で、庄内日報はローカル紙としてより一層とのモットーと努力を怠ることは出来ません。

地方紙としての役割りについては、2つの面が浮かび上がってくるものと思われます。

第1は、中央に対する地方紙の役割りであります。民主政治の基盤が地方自治にある以上、地方から中央へ、この回路が正常に働かなくては民主主義は空まわりしてしまいます。地方紙は、地方の情報を中央に伝える機能を發揮して初めて、中央の批判者となり得るのではないのでしょうか。

第2には、地方に於ける地方紙としての役割りです。この点に私はローカル紙の中での広告と云うものを大切に考えていきたいのです。

住民のこころを汲み上げることが、地方紙の重要な仕事であり、換言すれば、全国紙がニュース価値を認めない問題を発掘するのが編集（記事）であり、住民が全国紙を必要としない地域的なニュース（広告）を取り上げていくのが、我々広告営業の役割りではなからうか、と思っています。

簡単な言い方をいたしますと、鶴岡市や酒田市、いせ庄内地区で「猫や犬が行方不明になる。」という事が多々ございます。その際、国宝級の生き物であれば全国紙も、ブロック紙もニュースとして取り上げるでしょう。しかし、どこ

にでもいるペットの場合、どの新聞も、ローカル紙の我が社でもニュースとして、記事としては取り上げません。

しかし私たちは、これをお金にします。額は別としましても、この尋ね犬、尋ね猫も誰もふり向かないようですが、私はニュースであり、記事だと思っております。

欧米では、個人の意見広告としての広告が盛んのです。企業単位の広告が日本程多い国はない、と云う話も聞いています。

日本の大新聞での意見広告としての話ですが、今年のジャイアンツの不甲斐なさに激怒したファンが各人小金(こがね)を持ちより、ガンバレジャイアンツの広告を読売新聞に全頁出稿したのがございました。八百屋のお父さんあり、ラーメン屋あり、学生あり、ありとあらゆる職種の人々が名前をつらねており、個人個人の創意から出した広告のように見てたのですが、実はある広告代理店の持ち込み企画であり、その代理店の言葉がかきあつめた広告でありました。この中には、個人の意志は殆どない。それとは逆に、料理研究家のバーベラ寺岡さんでしたか、ある出版社の取材に応じたのはよいのですが、バーベラさんが話をしないことも、写真をとるとも云わたいので、写真をも載せたということ、抗議を申し込んだが、受け入れられなかったそうです。

そこで、300,000円のお金を準備し、意見広告として新聞社に向かいその出版社に謝罪・訂正を求める意味の広告を持参したところ、その新聞社は、出版社での了解をとったかどうか、内容が本当なのか、どうか等、とにかく面倒な手続きを踏んでやっと小さなスペースで意見広告として掲載してもらった、という話を聞いたことがあります。300,000で小さなスペースでしようが、ローカル紙の私共にとっては全頁広告の料金になるのですが。

このように、大きな新聞では手続き、スペース、内容等に非常に面倒な個人広告も、私たちのような完全ローカル紙では一種のニュース性を持って広告として生きてくることを私は確信しております。

現在、当社はオフセット輪転機で、写真植字を中心にした広告紙面作成を行なっております。幸い優秀なデザイナーのおかげで各方面からおほめの言葉を頂き、それにより営業マンも一層の励みとなっていることは事実でございます。

私共は、先程も申し上げましたような、2~3cm位の小さな広告、ニュースを大事にしながら毎日の新聞発行に努力している現状です。

さて、全国的にみまして、近年の媒体別広告費の伸びでは1978年に初めて新聞がテレビを上回り、続いて量の伸びではテレビの番組コマーシャル0.7%、スポット2.2%を大きく上回る6.0%の伸びを記録しました。これは、73年のオイルショック直前の状態にやっと近づいたということです。日本広告業協会が中心になり、77年にはDM(ダイレクトメール)作戦、78年にはポスター戦略が展開され、いずれも話題を呼んでいます。しかし残念乍ら新聞の持っている累積された価値が理解されていないところがまだありました。やはり若干の評価に甘えるところなく、価値の発掘にも力を投入していかないと、この現状も息切れをする恐れがあります。

77年と78年の先に申し上げましたDM・ポスターとしての2年間のPR活動が広告主の目を新聞に再び向けることが出来たとすれば、これからは大新聞、ブロック紙、ローカル紙ともにその向いた目を楽しませるべく努力と活動を続けていかなければなりません。俗に云われていますが「マーケティングとはユ

ーザーの需要を発見してこれに満足を与えていく活動」と定義されています。

私たちローカル紙も、基本に立ちかえて新聞社はマーケティング活動の新たな展開を見る時が来たと考えております。

私ども広告部内で打ち合わせの基本として、広告主が新聞広告を利用したら

- ① どのくらいの人達に到達、伝達するか（量の問題）又、どのような種類の人に到達するか（質の問題）という到達の段階を考えます。
- ② どのくらいの人が見たり、読んだりしてくれるかの質を加え注目あるいは、認知されたかを考えます。
- ③ 見たり、読んだりしたことで、その企業名を知ったり、理解したり、あるいは買いたいと思ったりする段階（態度変容というそうですが）を考えます
- ④ そして最後に買ったり、行ったり、申し込んだりする行動の段階までを考えながら営業活動を行なおうとしています。

ただ単にスペース補充の為の広告、料金をもらえばよい式の広告ではなく、広告主に最後迄責任をとれる体制をとりたいと常に考えてはいるのですが、会社規模、人員、調査網の不備等により、万全なアフターサービスが出来ない現状なのが実情です。

今後、全社一丸となり粉骨細身、広告主の皆様と読者の皆様、共存共栄をかたしてがんばりたいと思います。

益々のご指導、ご理解をお願い申し上げます。私の話を終わらせて頂きます。どうもありがとうございました。

## 出席報告

本日の出席	会員数	68名	欠席者	池田君、藤川君、早坂(源)君、石黒君、板垣(俊)君、黒谷君、皆川君、本山君、諸橋君、中江君、中野君、斎藤(栄)君、斎藤(利)君、笹原君、佐藤(昇)君、横田君、玉城君
	出席数	51名		
	出席率	75.00%		

前回の出席	前回出席率	76.47%	メア 1ッ クブ	新穂君—新庄 R.C 黒谷君—温海 R.C 秋野君、板垣(俊)君、市川君、風間君、石黒君、三浦君、本山君、中野君、野村君、佐藤(昇)君—鶴岡西 R.C
	修正出席数	64名		
	確定出席率	94.12%		